



自律した姿がみられた宿泊学習

校長 高田 篤志

8月25日から26日にかけて、6年生の宿泊学習が、国立能登青少年交流の家で行われました。

引率者の事前の打合せで、学年主任から「教員からその都度、細かく指示を出すのではなく、子供たちが自分でしおりを確認して行動をしたり、自分たちで声をかけ合い、助け合ったりして進める宿泊学習にしたい。」という話があり、引率者全員で共有しました。

春からの学習の成果を、今度は多くの体験活動を含めた共同生活の中で、どのように発揮されるのか、注目しながらの引率となりました。

バスに乗るときは、運転手の方に「お願いします。」と気持ちのよい挨拶をしたり、入所式では担当の方の説明をしっかりと聞いたりしていました。施設での夕べの集いや朝の集いでは、大学生や高校生等がたくさんおられる中で、司会進行や学校紹介、旗係を堂々と務める姿も立派でした。

砂像づくりやカヌー、アーチェリーやディスクゴルフといった野外活動では、「そのアイデアいいね。」「うまい！」など、プラスの声かけが数多く聞かれ、子供たちの笑顔があふれる宿泊学習となっていました。この宿泊学習の目当てである「最高の思い出 ～みんなで助け合い、6年生の絆がレベルアップできるような宿泊学習にしよう～」が十分に達成されたように思います。

2学期が始まった今、今回の学びを生かし、自分たちの自律した姿を大いに発揮して、学校生活の中でも全校みんなの絆がレベルアップするように活躍してほしいと願っています。

子供たちの感想から

- 砂像づくりでは、班のみんなで道具をゆずり合って使えてよかったです。また、ディスクゴルフでは、友達にアドバイスをしたり、してもらったりして協力できてよかったです。知らない人に会ったときに、進んであいさつができたので、これを続けていきたいなと思いました。自分が使ったベッドを、次の人が気持ちよく使えるようにきれいに元どおりにできたのもよかったです。
- 他の団体の皆さんのことを考えて、部屋の中や廊下では静かに過ごすことを意識しました。この宿泊学習では、今、私は何をしたらよいのか考えて行動することができたと思います。これからの生活で生かしたいことは「5分前行動」です。相手のことを考え、これからの生活でも試していきたいと思います。
- 私が困ったときに、友達が教えてくれたり、声をかけてくれたりしたのでうれしく思いました。みんなが協力していていいなと思いました。私は、班のみんなにこまめに声をかけることを意識しました。「体調は大丈夫?」「分からないことはある?」など、やさしい声かけを意識してできたのでよかったです。私は、今まで一人でできなかったことが、この宿泊学習でできるようになりました。あいさつを進んですること、時間を守ること、友達のよいところを見付けること、これからの生活でも生かしていきたいと思います。